Impella5.5 に関する研究

１．研究の対象

2018 年 1 月～2026 年 8 月に当院で心臓大血管疾患に対する手術を受けられた患者さんのうち、手術前の左室駆出率が 30%未満の方

２．研究目的・方法

心臓、特に左心室の機能は心臓・大血管疾患に対する手術を行う際に特に重要です。左心室の機能が極めて不良である場合には術後に強い心不全を呈する可能性が高く、薬のみならず機械的な心臓補助が必要となることがあります。このような場合、大動脈内バルーンパンピング（IABP)という方法を用いて心臓を補助しますが、十分な左心室の補助効果を得ることが困難であったり、大動脈瘤や動脈硬化が強い方ではその使用が不可能な場合があります。

Impella5.5 はカテーテルで左心室を補助するデバイスで、すでに急性心筋梗塞後のショックに対する治療にも用いられ良好な成績が得られています。この補助デバイスを左心室機能は極めて不良な方に手術中から使用することにより、術直後より良好な心機能を確保することが可能となり良好な手術成績を得ることが期待されます。低左心室機能を有した患者さんのこれまでの手術成績と、この Impella5.5 を術中より使用した患者さんの成績を比較して、このような重症な患者さんにも安全な心臓大血管手術を提供できる方法を確立したいと考えています。

３．研究に用いる情報の種類

病歴、心臓超音波検査、CT などの画像情報、手術歴、術後合併症、退院後遠隔期合併症の発生状況等

４．外部への試料・情報の提供

行う予定はありません。

５．研究組織

りんくう総合医療センター　良本政章

６．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

照会先：
大阪府泉佐野市りんくう往来北 2-23
TEL 072-469-3111
りんくう総合医療センター心臓血管外科
良本政章（研究責任者）